

# 接続連鎖現象の日韓比較に関する一考察

黒柳子生\*  
shigeo@hagajae.com  
劉錫勳\*\*  
syoun@korea.ac.kr

## <目次>

1. はじめに	4.2.3 後続接続詞と後続接続副詞
2. 問題提起	4.2.4 接続詞と接続副詞
3. 先行研究	4.2.5 先行接続助詞と先行連結語尾
4. 分析	4.3 接続連鎖現象の類型
4.1 調査対象	4.3.1 形式的連鎖
4.2 調査結果および分析	4.3.2 意味的連鎖
4.2.1 接続連鎖現象の日韓比較	4.3.3 機能的連鎖
4.2.2 接続助詞と連結語尾	5. おわりに

主題語: 接続連鎖(Conjunctive Concatenation)、接続詞(Conjunction)、接続助詞(Conjunctive Particle)、接続副詞(Conjunctive Adverb)、連結語尾(Connective Ending)

## 1. はじめに

接続詞は、独立した先行文脈の内容を受けなおし、後続文脈の展開の方向性を示す表現であり(石黒:2008)、必ずしも文だけではなく単語や節など様々な単位をつなぐ機能を持っている接続表現である。日本語や韓国語のように言語類型論的に膠着語と呼ばれる両言語では、接続詞(韓国語では接続副詞)の他にも、接続助詞(韓国語では連結語尾)という形で先行文脈(従属節)の末尾に付いて、接続表現としての役割を果たす表現方法が二通り可能である。

そのため接続表現でつながれた一連の文脈において、その先行文脈と後続文脈の間には接続詞、または接続助詞のどちらかを使用することによって以下(1)のように前後文脈の接

\* 高麗大学校 言語学科 博士課程修了  
\*\* 高麗大学校 言語学科教授、交信著者

続が可能になるという他言語には見られない特徴がある。接続助詞という接続表現があることで、後続の文脈内容の方向性が事前に把握できるという面でコミュニケーションにおける展開機能を助ける役割を果たしているといえる。

(1a) 昨日は雨だった。だから、授業に行かなかった。 甲田(2001:223)

(1b) 昨日は雨だったから、授業に行かなかった。 甲田(2001:223)

接続助詞による文の接続の場合、意味用法が一つではなく幾通りかの意味を持ち合わせているものがあり、それらが先行文脈に用いられた場合、後続文脈の理解にいくつかの可能性を考慮しなければならないことが以下(2)の例から分かる。

(2a) 蜷川の演出と聞いて見に行ったが、…… 甲田(2015:54)一部省略

(2b) 蜷川の演出と聞いて見に行ったが、あまり面白くなかった。 甲田(2001:54)

(2c) 蜷川の演出と聞いて見に行ったが、なかなか面白かった。 甲田(2001:54)

甲田(2015:54)では接続助詞「-が」に「逆接、偶然確定的関係、対比・対照、前置き」など様々な意味があるとされているが、(2a)のように接続助詞の出現時点では、後ろにどのような内容が来るのかが分からないために接続助詞の意味を特定することが困難である。最も基本的な用法の逆接であると理解した上で(2b)のような後続文脈が来ることが予想できるが、実際には(2c)のように逆接ではない内容が来ることも可能である。そのために接続助詞「-が」などでは後続文脈を見て初めて意味を特定することができる。

## 2. 問題提起

日本語と韓国語は言語類型論的に共に膠着語とされ、接続表現を表すには接続助詞<sup>1)</sup>を用いる方法と、接続詞<sup>2)</sup>を用いる方法の二通りがあるが、接続助詞はその意味用法範囲が広く、中には「-て」のように、特定の意味を示すのではなく、前後の節をつなげるために用

1) 韓国語では日本語の接続助詞に相当するものを連結語尾と呼ぶ。本稿では韓国語に特化する場合に限り連結語尾と表記し、それ以外は接続助詞という用語で統一表記した。

2) 同様に日本語の接続詞に相当するものは接続副詞と呼ばれるが、韓国語に特化する場合にのみ接続副詞と表記し、それ以外は接続詞として統一表記する。

いられる(愈京和:1999)ようなものまで存在する。

そして実際の言語活動では接続表現が2つ以上連なって出現することがあり、その一つは以下(3)のような接続詞の二重使用をあげることができる。

- (3) そんなことは分かっていたよ。だから、でも、諦めきれないんだよ。 馬場(2013:19)

もう一つは本稿で取り扱おうとする接続連鎖現象である。接続連鎖現象とは先行文脈(従属節)に接続助詞が用いられつつ、その直後に隣接して後続文脈の頭に接続詞が用いられて出現する以下(4)のような現象のことを指している。

- (4) 太郎はすぐに戻ると言って出ていったが、ところが1時間経っても戻らなかった。  
宮島・仁田(1995:589)

ではなぜ、接続表現が二つも隣接して現れるのであろうか。一つには同じ意味を繰り返すことで強調の意味を持たせるということが容易に考えられる。または接続助詞の意味が不鮮明なために後続文脈の意味をより鮮明に示すために連続使用されているとも考えられる。

後続の接続詞はその意味が比較的明瞭であるのに対して、接続助詞は「-て」や「-が」等により代表されるように意味範囲が広くて不明瞭な場合があり、先行研究などでは前後の文脈によって接続助詞の意味が決定されるともいわれている(江口:2015)。接続助詞だけでは、その出現時点において意味機能をはっきりとは限定できず、聞き手にとって解釈困難な事態が発生する可能性があるのである。

本稿ではこのように意味が複数存在し得る接続助詞の場合に、意味機能を接続助詞が現れた直後のできるだけ早い時点で確定するためにも、後続隣接して接続詞を使用することでその意味をより明確に示して聞き手の理解を助けているのではないかと。つまり、接続助詞と接続詞が隣接することで、該当の接続表現がより明瞭なものになるという仮説を立て、実際の言語活動において、特に膠着語にのみ見られる連鎖現象にはどのような形式があり、またそれぞれの接続連鎖現象で共起しやすい接続助詞と接続詞の組み合わせについて日本語と韓国語を比較しながら考察する。

### 3. 先行研究

本稿で扱う接続連鎖現象を直接的に対象とした研究は大内(2012)が管見の限り唯一であるが、そこでは接続表現の二重使用という既存の接続詞の二重使用という枠組みの中で「接続助詞+接続詞」という組み合わせに関して調査しているが、具体的な用例や出現頻度数などが示されておらず、「接続助詞+接続詞」の機能などに関する実態は明らかにされていない。

また韓国語における接続連鎖現象を対象にしたものは見当たらず、類似の研究としては接続副詞の重畳研究(김현자:2014,2015)などであり、「連結語尾+接続副詞」という組み合わせを対象にした調査ではなかった。

### 4. 分析

本稿では日本語と韓国語における接続連鎖現象が実際の言語使用においてどのように使用されているのかを調べるために、日本語と韓国語のコーパス資料を調査し、その結果を分析した。ここでは接続連鎖現象としてどのようなペアが多く使用されているのかを概観し、さらに各接続助詞(連結語尾)と接続詞(接続副詞)の総数、相互に共起しやすい組み合わせなどを考察し、接続連鎖現象の類型分類を試みた。

#### 4.1 調査対象

日本語の資料としては『現代日本語書き言葉均衡コーパス(以下『BCCWJ』と記す)』(2015年度版)を利用し、接続助詞(P.Conj)と接続詞(Conj)が隣接しているものを対象とし、両者の間に句読点(Sym.c)などがあるものでも隣接していると判断して分析対象に含まれている<sup>3)</sup>。

韓国語の資料は『世宗意味分析コーパス(以下『世宗』と記す)』を利用し、連結語尾(EC)と接続副詞(MAJ)が隣接しているものを対象とし、日本語と同じく両者の間の句読点(SP)など

3) ファイルOV(韻文)は短歌や俳句、詩などから構成されており、言語使用の非常に特殊なジャンルであり、またファイルの規模も他のファイルに比べて小規模であるために、今回の調査対象からは外した。

があっても隣接しているものとみなして、分析対象に含まれている。

4.2 調査結果

4.2.1 接続連鎖現象の日韓比較

日本語における接続連鎖現象を調査した結果をまとめると以下<表1>のように整理できた。ここでは紙面の関係上、高頻度順に10位までを示している。nfは各コーパスにおける100万分節(語節)当りの個数を表している。

<表1> 日本語の接続連鎖現象

頻度：件(%)、nf=100万分節当り(件)

順位	接続連鎖現象	頻度(%)	nf	順位	接続連鎖現象	頻度(%)	nf
1	-が + それでも	1548(9.5%)	16.2	6	-て + それから	656(4.0%)	6.9
2	-が + しかし	1484(9.1%)	15.5	7	-て + しかも	643(3.9%)	6.7
3	-し + また	1236(7.6%)	12.9	8	-と + また	322(2.0%)	3.4
4	-て + そして	1210(7.4%)	12.7	9	-けれど + でも	307(1.9%)	3.2
5	-て + また	836(5.1%)	8.8	10	-が + また	285(1.7%)	3.0

日本語の接続連鎖では接続助詞「-が」と逆接の接続詞「それでも」の組み合わせが1548件で最も多く、全体の9.5%を占めていた。次いで接続助詞「-が」と逆接の接続詞「しかし」が1484件で、全体の9.1%と続いた。接続助詞「-が」は主に逆接と言われているために、ここでは「逆接+逆接」の組み合わせと考えることができ、日本語の接続連鎖では「逆接+逆接」の組み合わせが多用されている一面が分かった。その次には並列または理由とも言われる接続助詞「-し」と添加の接続詞「また」が1236件(7.6%)と続いた。4位から7位までの接続助詞はどれも「-て」が占めているが、接続助詞「-て」は日本語においては、機能語として前後文脈をつなぐのみで、特定の意味は有さないために多く用いられているのかもしれない。

接続連鎖として接続助詞「-て」に最も共起しやすい接続詞は展開・添加の「そして」で1210件(7.4%)、添加の接続詞「また」が836件(5.1%)、「それから」が656件(4.0%)、「しかも」が643件で3.9%と後を追っている。続いては仮定の接続助詞「-と」と添加の接続詞「また」で322件(2.0%)、逆接ともいわれる接続助詞「-けれど」と逆接の接続詞「でも」が307件(1.9%)、接続助詞「-が」と添加の接続詞「また」が285件(1.7%)の順であった。

接続助詞「-て」は意味の特定が非常に難しい接続助詞とされているが、調査結果からも接続連鎖現象として接続助詞「-て」が多く観察され、特に「そして」「また」「それから」「しかも」と共起しやすいことが確認できた。しかしこれらは全て添加の接続詞と呼ばれるもので、接続連鎖の際には接続助詞「-て」は添加の接続詞との共起率が高いことがわかった。

続いて韓国語の接続連鎖現象を調査した結果をまとめると以下<表2>のように整理できた。ここでも紙面の関係上、高頻度順に10位までを示した。

<表2> 韓国語の接続連鎖現象

頻度：件(%), nf=100万語節当り(件)

順位	接続連鎖現象	頻度(%)	nf	順位	接続連鎖現象	頻度(%)	nf
1	-고 + 또	721(14.1%)	78.9	6	-지만+그러나	141(2.8%)	15.4
2	-고 + 따라서	283 (5.5%)	31.0	7	-며 + 또	140(2.7%)	15.3
3	-고 + 그래서	281 (5.5%)	30.8	8	-고 + 또한	83(1.6%)	9.1
4	-고 + 그리고	258 (5.1%)	28.2	9	-거나 + 또는	72(1.4%)	7.9
5	-며 + 따라서	185 (3.6%)	20.3	10	-게 + 그리고	65(1.3%)	7.1

日本語の接続連鎖では上位に「-が」「-し」「-て」など様々な形態がみられたのに対し、韓国語では上位4位まで全て「-고」が使われ、韓国語の連鎖現象全体の3割以上を占めるほどに多用されていた。韓国語の分類法では「-고」は羅列の連結語尾とされているが、最も共起しやすいものは反復の接続副詞「또」が721件で全体の14.1%であった。続いては因果の接続副詞「따라서」が283件(5.5%)と1位との差が日本語に比べて大きいといえる。3位には同じく因果の接続副詞「그래서」が281件で5.5%と続き、並列の接続副詞「그리고」の258件(5.1%)と、ここまでは羅列の連結語尾と共起していた。日本語では「逆接+逆接」の接続連鎖現象が多かったが、韓国語では「羅列+反復」の組み合わせであり、これはその用語こそ違えどもどちらも「添加(羅列)+添加(反復)」とも見ることができ、日本語と韓国語では違いがあることが分かった。

次に多い組み合わせは羅列の「-며」と因果の「따라서」が185件(3.6%)、対立の「-지만」と同じく対立の「그러나」が141件(2.8%)と続いた。羅列の「-며」と反復の「또」が140件(2.7%)、羅列の「-고」と「또한」が83件(1.6%)、次いで選択の「-거나」と選択の「또는」が72件(1.4%)、目的の「-게」と羅列の「그리고」が65件(1.3%)のように続いた。

## 4.2.2 接続助詞(日)と連結語尾(韓)

ここでは接続連鎖現象として抽出された接続助詞と連結語尾を対象にそれぞれの総数を調査した。まず日本語において使用された接続助詞のうち、後続接続詞に関係なくどのような接続助詞が使用されたのかをまとめると<表3>のように整理できた。

<表3> 日本語における接続連鎖現象に使用された接続助詞

順位	接続助詞	頻度(%)	nf	順位	接続助詞	頻度(%)	nf
1	-て	5553(34.0%)	58.1	6	-ば	625(3.8%)	6.5
2	-が	5243(32.1%)	54.9	7	-ながら	471(2.9%)	4.9
3	-し	2113(12.9%)	22.1	8	-から	432(2.6%)	4.5
4	-けれど	741 (4.5%)	7.8	9	-つつ	85(0.5%)	0.9
5	-と	695 (4.3%)	7.3	10	-ために	84(0.5%)	0.9

接続連鎖現象としての組み合わせでは接続助詞「-が」を伴った組み合わせが最上位を占めていた。接続助詞のみを調査すると接続助詞「-が」よりも「-て」のほうが総数としては210件ほど多い5553件(34.0%)であったが、その差は1.9%に過ぎず近似しているといえよう。接続助詞「-て」は上述のように意味が不確定で、様々な接続詞との連鎖が容易であるために多用されたと考えられる。接続助詞「-て」に次いで「-が」は5243件(32.1%)、続いて「-し」が2113件(12.9%)であり、それ以降は頻度が1000件以下であった。逆接といわれる「-けれど」が741件(4.5%)、条件の「-と」が695件(4.3%)、「-ば」が625件(3.8%)と続いた。そして付帯の「-ながら」は471件(2.9%)、原因・理由を表す「-から」が432件(2.6%)と続き、付帯の「-つつ」は85件(0.5%)、「-ために」は84件(0.5%)であった。

次に韓国語の連鎖現象全体を対象に後続の接続副詞に関係なく抽出された先行連結語尾の総数をまとめると<表4>のように整理できた。

<表4> 韓国語における接続連鎖現象に使用された連結語尾

順位	連結語尾	頻度(%)	nf	順位	連結語尾	頻度(%)	nf
1	-고	2023(39.6%)	221.5	6	-는데	186(3.6%)	20.4
2	-며	687(13.5%)	75.2	7	-게	115(2.3%)	12.6
3	-아(서)	321(6.3%)	35.1	8	-거나	113(2.2%)	12.4
4	-지만	263(5.2%)	28.8	9	-라	98(1.9%)	10.7
5	-면	232(4.6%)	25.4	10	-는지	97(1.9%)	10.6

韓国語の接続連鎖では羅列の「-고」が他の連結語尾とは大きな差を置いて最も多く使われていた。これは日本語の「-て」や「-が」、「-し」のように分布の幅が見られたのとは対照的に「-고」に集中しているといえる。それはこの「-고」にも羅列の意味のみならず、対立や原因の意味も含まれている(이봉선:1999)ために、意味が不明瞭になりやすく、よって多くの接続副詞と共起し得ることで総数が多くなったのではないかと考えられる。最も多い「-고」が2023件で全体の39.6%を占めたのに続き、羅列の「-며」が687件(13.5%)で、その間には3倍近くの差が開いている。これら「-고」と「-며」はどちらも羅列に分類される連結語尾であり、日本語の結果で「-て」、「-が」、「-し」によって八割近くを占められていたのとは対照的に、韓国語では「-고」のみで39.6%を占めており、2位の「-며」とも合わせると全体の五割以上に及び、韓国語の接続連鎖現象としての連結語尾には「羅列」が多いことがわかった。

続いては因果の「-아(서)」<sup>4)</sup>が321件で、日本語の原因・理由を表す接続助詞「から」が8位(2.6%)であったのに対して、韓国語の因果を表す連結語尾「-아(서)」は3番目に多いことになり、韓国語は日本語よりも因果表現が現れやすいことが分かった。次に対立の「-지만」が263件(5.2%)、条件の「-면」が232件(4.6%)と後を追った。さらに連結語尾「-는데」は対立や原因・理由ともいわれているもので186件(3.6%)、目的の連結語尾「-게」が115件(2.3%)、選択の連結語尾「-거나」が113件(2.2%)であった。続いて98件(1.9%)の「-라」であるが、これは「-라」全体の88.8%に該当する87件で「아니라」の形をしていた事実は特記しておくべきであろう。そして「-는지」は漠然とした疑問の連結語尾としてさまざまな意味を有するが97件(1.9%)であった。

#### 4.2.3 後続接続詞(日)と後続接続副詞(韓)

ここでは接続連鎖現象の接続助詞として抽出された上位3種の「-て」と「-が」、そして「-し」にそれぞれどのような接続詞が共起しやすいのかを以下<表5>にまとめた。これにより各接続助詞と接続詞の共起の性格をより細かく見ることができると思われる。紙面の関係上、各5位までを示した。

4) 韓国語では形態的に「-아」「-어」「-아서」「-어서」等、様々に出現する可能性があるが、本稿では全てを同一のものとして扱い、「-아(서)」の形で表記を統一した。



<表5> 日本語の接続連鎖現象における接続助詞に後続する接続詞

順位	接続助詞 「-て」	頻度(%)	接続助詞 「-が」	頻度(%)	接続助詞 「-し」	頻度(%)
1	そして	1210(21.8%)	それでも	1548(29.5%)	また	1236(58.5%)
2	また	836(15.1%)	しかし	1484(28.3%)	それから	276(13.1%)
3	それから	656(11.8%)	また	285 (5.4%)	あるいは	138(6.5%)
4	しかも	643(11.6%)	だから	174 (3.3%)	しかも	75(3.6%)
5	あるいは	209(3.8%)	ただ	174 (3.3%)	更に	66(3.1%)
:	:	:	:	:	:	:

接続助詞「-て」には添加の接続詞「そして」が最も多く共起しており、これは甲田(2001)でも言われているように接続助詞と接続詞が対応している同形のペアと見ることができ、1210件で「-て」に後続する接続詞全体の21.8%に当たる。次に多いものは添加の接続詞「また」で836件(15.1%)、同じく添加の接続詞「それから」が656件(11.8%)、さらに「しかも」も添加の接続詞であり643件(11.6%)となった。このことから接続助詞「-て」は接続連鎖現象としては添加の接続詞と非常に共起しやすいということが分かった。対比の接続詞「あるいは」は209件(3.8%)と続いた。

接続助詞「-が」には逆接の接続詞「それでも」が1548件と最も多く全体の29.5%を占め、続いて同じく逆接の「しかし」が1484件(28.3%)となっている。他の後続接続詞に比べてこれら2種が著しく多いことから、接続連鎖として接続助詞「-が」は逆接の接続詞と非常に共起しやすいことがわかった。その後を添加の接続詞「また」が285件(5.4%)、順接の「だから」が174件(3.3%)、補足の接続詞「ただ」が同じく174件(3.3%)と続いた。

接続助詞「-し」には並列と原因・理由の意味があると言われているが、後続接続詞として最も多かったのは添加の接続詞「また」で1236件、全体の58.5%と他の接続詞に比べて著しく多く、「-し」は接続詞「また」と非常に共起しやすいということがわかった。続いては添加の接続詞「それから」が276件(13.1%)、対比の接続詞「あるいは」は138件(6.5%)、添加の接続詞「しかも」とは75件(3.6%)、添加の接続詞「更に」とは66件(3.1%)であった。このように見ると接続助詞「-し」は添加の接続詞と共起しやすいといえる。

では韓国語ではどのような結果になるだろうか。同じく連結語尾の総数にて上位を占めた「-고」と「-며」、「-아(서)」にどのような接続副詞が後続しやすいのかを以下<表6>にまとめた。

&lt;表6&gt; 韓国語の接続連鎖現象における連結語尾に後続する接続副詞

順位	連結語尾 「-고」	頻度(%)	連結語尾 「-며」	頻度(%)	連結語尾 「-아(서)」	頻度(%)
1	또	721(35.6%)	따라서	187(27.2%)	그리고	95(29.6%)
2	따라서	283(14.0%)	또	140(20.4%)	또	52(16.2%)
3	그래서	280(13.8%)	또한	92(13.4%)	오히려	30(9.4%)
4	그리고	258(12.8%)	그리고	51(7.4%)	또는	27(8.4%)
5	또한	83(9.1%)	그러나	45(6.6%)	역시/혹은 이른바	13(4.1%)
:	:	:	:	:	:	:

羅列の連結語尾「-고」には反復の接続副詞「또」が721件(35.6%)と最も多く共起していた。続いて因果の接続副詞「따라서」が283件(14.0%)、同じく因果の接続副詞「그래서」が280件(13.8%)と続いた。そして羅列の接続副詞「그리고」が258件(12.8%)で続き、「또한」は83件(9.1%)であった。

羅列の連結語尾「-며」には因果の接続副詞「따라서」が最も多く187件で全体の27.2%を占め、次いで反復の接続副詞「또」が140件(20.4%)であった。接続副詞「또한」は92件(13.4%)で、並列の接続副詞「그리고」の51件(7.4%)よりも多かった。他の連結語尾には見られなかった対立の接続副詞「그러나」が45件(6.6%)であったが観察された。

因果の連結語尾「-아(서)」には羅列の接続副詞「그리고」が95件で全体の29.6%と最も多く、次いで反復の接続副詞「또」が52件(16.2%)、さらに接続副詞「오히려」が30件(9.4%)と続いた。他の連結語尾では上位に見られなかった選択の接続副詞「또는」が27件(8.4%)と後を追ひ、以下は「역시」、「이른바」、「혹은」が共に13件(4.1%)で続いた。

#### 4.2.4 接続詞(日)と接続副詞(韓)

ここではまず接続連鎖現象として抽出された接続詞の総数について概観する。日本語において、先行する接続助詞に関係なく使用された接続詞を多い順にまとめると以下<表7>のようになる。

<表7> 日本語における接続連鎖現象に使用された接続詞

順位	接続詞	頻度(%)	nf	順位	接続詞	頻度(%)	nf
1	また	3175(19.4%)	33.2	6	しかも	859(5.3%)	9.0
2	それでも	2145(13.1%)	22.5	7	あるいは	702(4.3%)	7.4
3	しかし	1784(10.9%)	18.7	8	でも	694(4.3%)	7.3
4	そして	1495(9.2%)	15.7	9	さらに	476(2.9%)	5.0
5	それから	1166(7.1%)	12.2	10	だから	447(2.7%)	4.7

接続詞のみを対象に調査すると、添加の接続詞「また」が3175件(19.4%)で最も多かったが、これは接続連鎖において「-し」や「-て」、「-と」に「-が」と広く共起していたことから容易に予測できる。続いて多かった逆接の接続詞「それでも」が2145件(13.1%)で、これは先行研究(呉韓藝:2015)によって単独の接続詞使用としては頻繁に多用されやすいものではないが、接続連鎖としては非常に高頻度であり、単独使用に比べると接続連鎖現象として多く使われていることがわかった。次いで逆接の接続詞「しかし」が1784件(10.9%)と続き、添加の接続詞「そして」は1495件(9.2%)、同じく添加の接続詞「それから」が1166件(7.1%)と後を追った。

次に韓国語の後続接続副詞にはどのようなものが多いかを調査した結果をまとめると以下<表8>のように整理できた。

<表8> 韓国語における接続連鎖現象に使用された接続副詞

順位	接続副詞	頻度(%)	nf	順位	接続副詞	頻度(%)	nf
1	또	1150(22.5%)	125.9	6	오히려	253(5.0%)	27.7
2	그리고	734(14.4%)	80.4	7	또는	217(4.3%)	23.8
3	따라서	506(9.9%)	55.4	8	또한	209(4.1%)	22.9
4	그러나	449(8.8%)	49.2	9	혹은	113(2.2%)	12.4
5	그래서	444(8.7%)	49.2	10	역시	104(2.0%)	11.4

韓国語の接続副詞も日本語の「また」と対応する反復の「또」が最も多く1150件(22.5%)であった。これは各連結語尾と「또」が共起しやすいという上述の結果からも容易に予測できる。次いで羅列の「그리고」が734件で14.4%、因果の「따라서」が506件(9.9%)、対立の「그러나」と因果の「그래서」がそれぞれ449件(8.8%)と444件(8.7%)で続いた。

#### 4.2.5 先行接続助詞(日)と先行連結語尾(韓)

日本語の接続連鎖現象に使用されたそれぞれの接続詞に先行する接続助詞を整理すると以下<表9>のようにまとめることができる。

<表9> 日本語の接続連鎖現象における接続詞に先行する接続助詞

順位	接続詞 「また」	頻度(%)	接続詞 「それでも」	頻度(%)	接続詞 「しかし」	頻度(%)
1	-し	1236(38.9%)	-が	1548(72.2%)	-が	1484(83.2%)
2	-て	835(26.3%)	-て	201(9.4%)	-て	104(5.8%)
3	-と	322(10.1%)	-けれど	185(8.6%)	-ながら	83(4.7%)
4	-が	285(9.0%)	-ながら	81(3.8%)	-けれど	40(2.2%)
5	-ば	178(5.6%)	-ば	28(1.3%)	-と	16(0.9%)
:	:	:	:	:	:	:

接続詞「また」は添加と言われているが、この前には接続助詞「-し」が最も多く共起し、1236件で全体の38.9%を占めた。次に「-て」が835件(26.3%)、「-と」が322件で10.1%、「-が」が285件で9.0%、「-ば」が178件で5.6%と続いた。

接続詞「それでも」には同じく逆接と言われる接続助詞「-が」が1548件で全体の72.2%を占めている。続く「-て」が201件で9.4%にしか満たないことから「それでも」は「-が」と共起しやすいことがわかる。そして「-けれど」は185件で8.6%、「-ながら」は81件(3.8%)、「-ば」は28件(1.3%)であった。

接続詞「しかし」も逆接と言われる接続助詞「-が」が1484件で全体の83.2%を占める程に非常に高い共起率をみせた。このことから逆接を表す接続詞にはその直前に同じく逆接の接続助詞が使用されやすいということが確認された。接続詞「また」「それでも」とは比較的共起しやすかった「-て」は、「しかし」とは104件で5.8%にしか満たず、「しかし」とは共起しにくいといえる。

最後は韓国語の接続連鎖現象に使用されたそれぞれの接続副詞に先行する連結語尾を整理すると以下<表10>のようにまとめることができる。

<表10> 韓国語の接続連鎖現象における接続副詞に先行する連結語尾

順位	接続副詞 「또」	頻度(%)	接続副詞 「그리고」	頻度(%)	接続副詞 「따라서」	頻度(%)
1	-고	721(62.7%)	-고	258(35.2%)	-고	283(55.9%)
2	-며	140(12.2%)	-아(서)	94(12.8%)	-며	187(37.0%)
3	-아(서)	52(4.5%)	-게	65(8.9%)	-요	8(1.6%)
4	-면	48(4.2%)	-는지	57(7.8%)	-는데	4(0.8%)
5	-요	23(2.0%)	-며	51(7.0%)	-면서/-니 -아(서)	各 3(0.6%)
:	:	:	:	:	:	:

接続副詞「또」には羅列の「-고」が最も多く共起しており、721件で全体の62.7%を占めている。続く「-며」も羅列の連結語尾と言われており、これらを合わせると接続副詞「또」には全体の七割五分近くを羅列の連結語尾が先行していることになり、「또」は羅列の連結語尾と結びつきやすいといえる。続く「-아(서)」は52件で4.5%、「-면」は48件(4.2%)、「-요」は23件(2.0%)であった。

接続副詞「그리고」には羅列の「-고」が最も多く258件で、全体の35.2%を占めた。続く連結語尾「-아(서)」は94件(12.8%)、目的の「-게」は65件(8.9%)、「-는지」が57件(7.8%)、そして「-며」が51件(7.0%)と続いた。

接続副詞「따라서」には羅列の「-고」が最も多く283件で55.9%、次いで同じく羅列の「-며」が187件(37.0%)であり、この二種で全体の九割以上を占めている。それ以降は10件以下で、「-요」が8件(1.6%)、「-는데」が4件(0.8%)、そして「-니」「-면서」「-아(서)」が各3件(0.6%)ずつと続いた。

### 4.3 接続連鎖現象の類型

前節にて接続連鎖現象の接続助詞と接続詞の組み合わせとして、日韓両言語のコーパス資料を基にそれぞれがどのような結びつきを見せるのかについて見たが、これらの結果を基に、接続連鎖現象をどのようなタイプに分類する事ができるのかについて具体例と共に類型提示を試みた。組み合わせのタイプとしては、以下のようにまとめることができる。

<表11> 接続連鎖現象における連鎖の類型分類

接続連鎖の類型名称	説明	連鎖の例
形式的連鎖	形態的に同じペア	-て + そして
意味的連鎖	形態的には異なるが同じ意味のペア	-が + しかし
機能的連鎖	形態的にも意味的にも異なるペア	-と + また

まずは形態的に同じ接続表現同士、例えば「-て」と「そして」の組み合わせ等が考えられる。これを形式的連鎖と呼ぶことにする。次に意味の側面では同じだが形態の側面で異なる異形同意のパターンで、例としては「-が」と「しかし」の組み合わせ等が考えられる。これを意味的連鎖と呼ぶことにする。最後は形態も異なり意味も異なるが隣接して現れる接続連鎖現象で、これを機能的連鎖と呼ぶことにする。この機能的連鎖は、なぜその二つの接続表現が隣接して現れるのか、意味と機能の側面から精査する必要性のある部分である。本稿では紙面の関係上、上記調査結果で扱った結果の一部を対象に類型分類を試みるものとする。

4.3.1 形式的連鎖

まず最初に、形式的連鎖について考察していく。接続助詞と接続詞の対応関係に関しては甲田(2001)にて「順接」と「逆接」においては接続助詞による表現が可能であるとされており、それ以外には相応する接続詞と接続助詞がそれぞれに存在しないために、接続連鎖現象においてもそれ以外は形式的連鎖としては現れないであろうと考えられる。実際に両言語のコーパスにて観察された形式的連鎖の組み合わせは以下<表12>の2通りであった。

<表12> 抽出された日本語と韓国語の形式的連鎖現象

-て+そして	-고+그리고
--------	--------

日本語では「-て」と「そして」の組み合わせのみが見られ、理論的には「-が」と「だが」のペアや「-から」と「だから」のペアなども可能であるが、今回の分析対象にはこれらの組み合わせは含まれなかった。また韓国語では「-고」と「그리고」の組み合わせのみが見られ、理論的に可能なこれ以外の組み合わせである「-아서」と「그래서」のペアや「-면」と「그러면」のペアなどは見られなかった。

- (5) 彼女はしばらく考えて、そして肩を持ち上げた。『BCCWJ』  
 (6) 本書をじっくり読んで、そして実際に行動してみてほしい。『BCCWJ』

日本語における形式的連鎖で注意しなければならないのは、(5)の「-て」と(6)の「-で」は表面上は異なる形式をしているが、果たしてこれは同じかどうかという問題が考えられる。この際には(6)の「-で」とは日本語の活用において、「-て」の異形活用変化と考えられるためにここでは形式的連鎖として考えることができる。

- (7) 내 나라가 있고, 우리말을 쓸 수 있고 그리고 가족이 있다는 게 마냥 행복하게 느껴졌다. 『世宗』

韓国語には日本語のような異形式は存在せず「-고」と「그리고」の組み合わせのみであった。ここでは「A고 B고 그리고 C」という構造をしているが、この場合は接続副詞は事実上、使用しなくても意味には大きな差が発生しないが、同じ形態の繰り返しを避けるため、または意味の強調のために「그리고」が挿入されたのではないかと考えることができる。

### 4.3.2 意味的連鎖

ここでは形態的には異なるが、それぞれが同じ意味のカテゴリーに属すると考えられる意味的連鎖についてみてみよう。接続助詞や接続詞の意味分類は研究者によって異なるが、ここでは最も一般的とされる意味を各項目の代表的な意味として取り扱うこととする。

<表13> 抽出された日本語の意味的連鎖現象

-が+しかし	-が+それでも	
-けれ ど+しかし	-けれど+それでも	-けれど+でも
-し+しかも	-し+それから	-し+また
-て+しかも	-て+それから	-て+また

日本語の意味的連鎖には先行研究で意味の特定が困難とされている接続助詞を含む接続連鎖があげられる。大山(2017)でも「-て」や「-が」、「-けれど」などを、特定の意味があると

いうよりも単純接続として分類していることから後続の接続詞とはさまざまなものが共起することが容易に想像できる。しかし実際のコーパス資料には、「-が」と「しかし」、「-が」と「それでも」、「-けれど」と「しかし」などの逆接の意味同士のペアと、接続助詞「し」や「て」に添加の接続詞が続く対応関係のものがみられ、甲田(2001:223)で言われているように接続助詞と接続詞が対応しているものは逆接と順接であるとされていることとは必ずしも一致しなかった。接続助詞「-し」や「-て」には複数の意味がある(한규안:1999)と言われているが、本稿の調査結果からは主に添加を表す接続詞との接続連鎖が多くみられた。

- (8) 寒いけど、それでも風が強くないのが助かる。『BCCWJ』  
 (9) その考えはけっこうだけれど、しかし二つの大きな難問があるよ。『BCCWJ』

ここでは接続助詞「-けれど」について言及する。接続助詞「けれど」には言語形式的に「-けど」「-けども」「-けれども」などの異形が存在しているが、どれも同じ接続助詞として扱うこととする。ここではどちらの場合でも後続の接続詞がなくても文脈上に大きな意味の差は発生しないことが分かる。そのため形式の異なる同じ意味の接続表現を繰り返すことで、意味の強調を図ったものと考えられる。

<表14> 抽出された韓国語の意味的連鎖現象

-고+또	-고+또한	-거나+또는
-며+그리고	-며+또	-며+또한
-요+또	-지만+그러나	

韓国語の意味的連鎖では、羅列の「-고」と「-며」、「-요」に対して反復の「또」や「또한」「그리고」などが続くペアが続いたが、「羅列」や「反復」は用語こそ違えども「並列」の意味合いを含むために本稿では同じ意味カテゴリーとして、この分類に含めた。この他には対立の「-지만」と「그러나」の組み合わせ、選択の「-거나」と「또는」の組み合わせが見られた。

- (10) 먹을 때마다 다시 보온 스위치를 키거나 또는 전기 밥솥에서 식힌 후 냉장 보관 혹은 냉동 보관을 한다. 『世宗』  
 (11) 다섯명에 비해 지명도가 가장 뒤떨어지는 인물이지만 그러나 6명중 가장 한국적인 작품 세계를 추구한다. 『世宗』



韓国語の意味的連鎖の考察としてここでは反復と対立の例をみてみることにする。反復の「-거니」と「또는」の連鎖現象では後続接続副詞がない場合でも意味合いに大きな差は発生しない。これは対立の「-지만」と「그러나」でも同じ事が言える。つまり意味的連鎖の場合は形態の異なる表現を繰り返すことで、やはり意味をより強調する目的があるのではないかと考えられる。

### 4.3.3 機能的連鎖

ここでは形式的にも異なり、意味的にも異なる接続助詞と接続詞の組み合わせについて見てみよう。理論上は形式的連鎖と意味的連鎖に含まれない全ての組み合わせが可能であるが、実際に観察されたのは以下<表15>の組み合わせであった。

<表15> 抽出された日本語の機能的連鎖現象

-が+だから	-が+ただ	-が+また
-し+あるいは	-し+さらに	
-て+あるいは	-て+しかし	-て+それでも
-と+しかし	-と+また	
-ながら+しかし	-ながら+それでも	
-ば+それでも	-ば+また	

日本語の機能的連鎖には「-が」や「-し」、「-て」以外に仮定・条件の「-と」や「-ば」が見られ、さらに「-ながら」が観察された。ここではその一例として「-ながら+しかし」と「-て+しかし」を取り上げてみる。

- (12) 弥太郎は苛々しながら、しかしなにかを心待ちにしていた。『BCCWJ』
- (13) 弟が胃ガンと知って、しかし姉はそれほど強い衝撃を受けたわけではなかった。『BCCWJ』

接続助詞「-ながら」は継続とも逆接ともいわれている接続詞であるが、ここでは後続接続詞として逆接の「しかし」が来ている。「-ながら」を完全な逆接として考えるならば類型上は意味的連鎖に含まれることになるが、文脈からここでは継続であると読み取れ、後続の逆

接「しかし」とは意味の面では異なるために機能的連鎖として扱った。

接続助詞「-て」には多様な意味があるとされているが、ここでは逆接の「しかし」が続いている。文脈の前後を見ると反対の意味合いを含んでおり、「しかし」により逆接の意味として結ばれているが、接続詞がなく「-て」のみで接続されている場合には必ずしも逆接の意味合いは現れず、単純接続的なニュアンスになる。このように機能的連鎖の場合には後続接続詞の有無によって文章全体の意味合いに影響を与える可能性が伺える。

<表16> 抽出された韓国語の機能的連鎖現象

-게+그리고	-고+그래서	-고+따라서	-는지+그리고
-며+그러나	-며+따라서	-면+또	
-아서+그리고	-아서+또	-아서+또는	-아서+역시
-아서+오히려	-아서+이른바	-아서+혹은	

韓国語の機能的連鎖には羅列の「-고」や「-며」の他に目的の「-게」、そして条件の「-면」も見られた他に、因果を表すとされる「-아(서)」が様々な接続詞と連鎖している様子が観察された。

(14) 나는 그 눈을 똑바로 마주 바라보며, 그러나 여전히 정중한 어조로 덧붙였다. 『世宗』

(15) 사내는 최대한 다정하게, 그리고 최대한 목소리를 낮추어 재빨리 물어보았다. 『世宗』

ここでは前後文脈が羅列の連結語尾「-며」と対立の接続副詞「그러나」によって結ばれているが、「그러나」によって前後の関係が対立的であることがわかる。仮に接続副詞がない場合は対立の意味合いはなくなり、前後文脈が並列の関係として理解されるであろう。つまりここでは文脈をより詳しく追加説明しているとも考えられる。また(15)では接続助詞として「-게」が使われた直後に接続詞「그리고」が来ているが、ここでは先行文脈「최대한 다정하게 (물어보았다)」と後続文脈「최대한 목소리를 낮추어서 재빨리 (물어보았다)」が接続詞「그리고」によってつながれていると見るのが自然であろう。

## 5. おわりに

日本語と韓国語のコーパス資料を対象に、接続助詞と接続詞が隣接する接続連鎖現象に関して比較考察をした結果、以下のことが確認できた。

日本語の接続連鎖現象では「逆接+逆接」の組み合わせが多く見られたのに対して、韓国語では「羅列+反復」という「添加」の組み合わせが多くみられた。

日本語の接続助詞「て」と接続助詞「し」は添加の接続詞と非常に共起しやすく、接続助詞「が」は逆接の接続詞と共起しやすいことがわかった。

韓国語の接続連鎖現象では羅列の連結語尾「-고」が最も多く使用されており、連結語尾「-고」には「또」が、連結語尾「-며」には「따라서」が、連結語尾「-아(서)」には「그리고」が最も多く共起することがわかった。

接続連鎖現象のタイプを分類すると以下の三つに分けることができた。第一は形式的に同じ系列に属するものの組み合わせで「形式的傍系連鎖」、第二は形式的には異なるが意味の側面から同じものの組み合わせである「意味的連鎖」、第三は形式的にも意味的にも相互に異なる「機能的連鎖」の三種である。

本稿では、接続助詞や接続詞の意味分類が日韓の研究者によって未だに統一見解が見られず詳細な分析にまで至らなかった。また理論的には同形異意の接続連鎖も可能であるが検討することができなかった。これらは今後の課題としたい。

### 【参考文献】

- 김현지(2014)「구어 말뭉치에서 접속부사의 중첩 사용 양상 연구」『담화·인지언어학회 학술대회 발표논문집』 담화·인지언어학회, pp.35-45
- \_\_\_\_\_(2015)「한국어 구어 말뭉치에서 접속부사 중첩 구성 연구」『담화와인지』22, 담화·인지언어학회, pp.29-52
- 유경화(1999)「「~て」와 한국어의 「~고」, 「~어서」 대조연구」『일어일문학연구』35, 한국일어일문학회, pp.131-155
- 이봉선(1999)「국어 「-고」 접속문의 제약과 해석」『영어영문학연구』제25권 1호, 대한영어영문학회, pp.275-293
- 전영옥(2007)「구어와 문어의 접속부사 실현 양상 비교 연구」『텍스트언어학』22, 한국텍스트언어학회, pp.223-247
- 한규안(1999)「接續助辭の弁別に関する一考察」『일어일문학』12, 대한일어일문학회, pp.115-134
- 한송화(2013)「한국어 접속부사의 사용 양상 -텍스트 유형에 따른 사용 양상을 중심으로-」『언어사실과 관점』 31, 연세대학교 언어정보연구원, pp.139-169
- 石黒圭(2008)『文章は接続詞で決まる』光文社

- 甲田直美(2001)『談話・テキストの展開のメカニズム』風間書房
- 江口匠(2015)「<逆接>を表す「て」をめぐる」『人文』14, 学習院大学人文科学研究科, pp.59-77
- 吳禧藝(2015)「接続詞教育の見直しの必要性：接続詞の用法と学習者の使用頻度、誤用から」『国文目白』54, 日本女子大学国語国文学会, pp.1-16
- 大内薫子(2012)「接続表現の二重使用についてのコーパス調査-「接続詞+接続詞」と「接続助詞+接続詞」の比較から-」『日本語教育国際研究大会後頭発表, p.230
- 大山隆子(2017)「「し」の機能：「よ」「から」との比較を含めて」『研究論集』17, 北海道大学文学研究科, pp.135-155
- 加藤陽子(1995)「複文の従属度に関する考察：主節のモダリティを中心に」『語学プログラム ワーキングペーパー』6, 国際大学, pp.21-37
- 橋本貴子(2004)「中間言語における接続詞と接続助詞の切り替え：ある英語母語話者を例に」『阪大社会言語学研究ノート』6, 大阪大学大学院文学研究科社会言語学研究室, pp.139-155
- 馬場俊臣(2013)「接続詞の二重使用の承接順序について-『現代日本語書き言葉均衡コーパス』を用いた再検討」『語学文学』52, 北海道教育大学, pp.A1-23
- 前田直子(2005)「現代日本語における接続助詞「し」の意味・用法：並列と理由の関係を中心に」『人文』4, 学習院大学, pp.131-144
- 宮島達夫・仁田義雄(1995)『日本語類義表現の文法(下)』くろしお出版

#### <使用コーパス>

- 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(2015年版)([pj.ninjal.ac.jp/corpus\\_center/bccwj/](http://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/bccwj/))
- 『21세기 세종계획』(형태(의미) 분석 말뭉치)([ithub.korean.go.kr](http://ithub.korean.go.kr))

---

논문투고일 : 2018년 06월 20일  
 심사개시일 : 2018년 07월 17일  
 1차 수정일 : 2018년 08월 10일  
 2차 수정일 : 2018년 08월 12일  
 게재확정일 : 2018년 08월 16일

---

## ＜要旨＞

### 接続連鎖現象の日韓比較に関する一考察

黒柳子生・劉錫勳

本研究は、日本語と韓国語における接続連鎖現象を日韓両コーパスを利用して調査、分析し、どのようなタイプに分類することができるかを考察した。日本語や韓国語のように言語類型論的に膠着語と呼ばれる言語では、接続詞と接続助詞という二種類の接続表現を有している。そのために前後文脈を接続する際に接続助詞と接続詞の両方が使われる場合があり、これを本研究では接続連鎖現象と呼ぶ。

調査の結果、接続連鎖現象を三つのタイプに分類することができた。一つ目は接続助詞と接続詞が対応する「-て+そして」のような「形式的連鎖」、二つ目は接続助詞と接続詞が形態的には異なるが意味が同じである「-けど+それでも」のような「意味的連鎖」、三つ目は接続助詞と接続詞が形態的にも意味的にも異なる「-ながら+しかし」のような「機能的連鎖」である。

### A comparative study of Conjunctive Concatenation in Japanese and Korean

*Kuroyanagi, Shigeo · You, Seok-Hoon*

This study aims to research and to classify Conjunctive Concatenation in Japanese and Korean. Japanese and Korean are classified as agglutinative languages in sprachtypologie, so there are two ways to indicate a conjunctive expressions by Japanese Conjunctive particle (Korean Connective Ending) or Japanese Conjunction (Korean Conjunctive Adverb). So, there could be used both of Conjunctive particle and Conjunction to connect the context. We call this Conjunctive Concatenation.

As a result, we found that there are three types of Conjunctive Concatenation, first, Morphologic Concatenation, second, Semantic Concatenation and third, Functional Concatenation.